

2 週 Lullaby of Bird Land



さてこの曲の由来と作曲者について、少しだけ触れておくことにしよう。ジョージ・シアリングは、1919年イギリスのロンドンに生まれた目の不自由な人。盲学校でクラシック・ピアノを学んでから、ジャズ界入りし46年に渡米、ユニークなシアリングサウンドとスタイルのクインテットで名をあげ、最近になってグラミー賞も取っているはずである。

ユニークなシアリングサウンドとは、ゴージャスなブロックコードという奏法とビブラフォンのユニゾン（それにギター）だったと記憶している。これが夜の Mood でいいんだ！

Now York のジャズクラブ”バードランド”は、C. バーカーの愛称”バード（鳥）”にちなんで付けられたのだが、シアリングが、このクラブで演奏しているときにふと思いついて20分ほどで作曲

されたと聞いている。だが、よく調べてみたら 1920年代のある曲のコード進行が下敷きになっているようだ。巻末に歌詞を載せてあるので参考にして下さい。

レコードではなんと言ってもサラ・ボーン・ウイズ・クリフォード・ブラウン (EmArcy) が素晴らしいので是非探して聴いて下さい。実はこの曲、高校時代に自分のバンドを作った時によく演奏していた思い出の曲でもある。また、夷撫悶太 (イブ・モンタ、シャンソン歌手イブ・モンタンのシャレらしい、悩ましげな当て字ですな?) という名で桑田佳祐 (サザンオールスターズ) が TV コマーシャルで歌っていたことがある。なかなかジャズっぽい感じが出ていて良かったけどね？

そういえば、97年頃の話のアニメ”エヴァンゲリオン”のエンディングテーマに”Fly Me to The Moon”が使われていたのをご存じでしたか？その年の外国曲著作権使用料売り上げナンバーワンと言うことで、キングレコードは儲かったんだろうな？たまたまだけど、私が教本に取り上げた曲はなぜか話題性が有るなあと思うこの頃である。

では詳しく見ていきます。まず、テンポはわざとゆっくりにしてあります。ゆったりと Swing する感じをつかんで下さい。またもう少しテンポの速いオケも付けましたので練習してみてください。

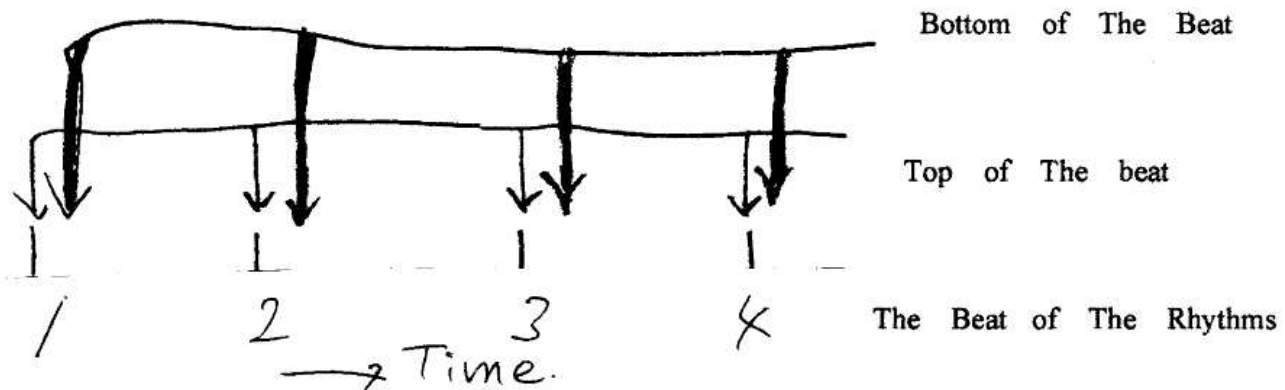
もう30年近く前の話ですが、Dave Liebmann (ss, ts) のクリニックに参加したことがあります。我が師匠松本秀彦先生の学校 (Lovely Jazz Music School) で招待したのです。そこで目を開かせられる思いをしたことがありました。それはビートに関するアドバイスでした。リズムを刻む、リズム楽器とメロディを歌うメロディ楽器ではビートに対する考え

方は違って当然ということでした。つまり、リズム楽器は、基本的に Swing 感のあるビートを供給する事に使命があるが、メロディ楽器（貴方の事です！）はそれに対してかなり自由に乗っていいということでした。次ページの図を見て下さい。

Top of The Beat はリズム楽器が刻むリズムと同じタイミングに乗る状態を表しています。Bottom of The Beat はリズム楽器が刻むリズムに対してゆったりと乗る状態を表しています。

初心者は Top of The beat よりも早いタイミングで演奏しがちですので気をつけましょう。いくら早くともリズム楽器が刻むリズムより早くなつてはいけません。むしろたっぷり歌ったら結果として多少は、リズム楽器が刻むリズムよりほんの少し遅れても良い ということなのです。ただし、明らかにずれるほど遅れてはいけませんね？

図1.



リズムに乗るのは乗馬に似ているのかもしれませんが。勢いのある馬にぐいぐい引っ張られるようにふうわりと乗ったり、負けじとタイミングを合わせて乗ったりするのは気持ちいいことに違いありませんから・・・・・・・・。

もうわかっている事とは思いますが、練習の手順は、CD(又はテープ)を聴く、一緒に歌う(ララーから、ドレミへ・・・)、saxを持って練習、Articulationにも注意して、よくリズムに乗るように注意します。この曲に関してはテンポがゆったりしている CD のオケの他にもう少しテンポの速いオケを付けましたので両方やって見ましょう。意外と速い方が乗りやすかったりしますが、遅い方特に、くれぐれもつつこみ過ぎないように、たっぷりリズムに乗るように努めて下さい。

又、先月と同じ注意を繰り返します。Breath(息継ぎ)をして、次の Breath までを一つの Long Tone と考えて、腹の圧力を一定に保つことを忘れないように。しかしながら A の 1、5 小節目のスタッカートは、これだけテンポが遅いと腹で一発一発やってかまいません。ex) 71 の 2 拍 3 連（2 拍を正確に 3 等分）はテープをよく聞いて下さい。

次に、この曲の Key でできているかを考えて行きます。皆さんは何の Key でできているとお思いですか？ Dminor、それとも Fmajor ? ? ? ?

正解は両方です。この二つの Key を行ったり来たりしているのです。ではこの 2 つの Key の練習をしてみましょう。上行、下行で音が違っているのに注意、Melodic 及び Harmonic Minor Scale だ。詳しくはテキスト p 96 を参照して下さい。



デューク・エリントン（Edward Kennedy（Duke）Ellington、作編曲家、ピアニスト、バンドリーダー、1899-1974）について。彼は Classic の世界でいうと、バッハやモーツァルトに当たる人と言えるだろう。音楽の父とされている人である。Jazz の形式、編曲法を、芸術的次元に高め、今でも愛され続けている幾多の作品を産みだした、偉大な人です。

Miles Davis も Jazz Musician は日に一度彼に感謝を捧げるべきであると言うことをいっています。また、日本が生んだ世界的作曲家・武光徹が Duke Ellington に弟子入りしたかったというのも有名な話です。私も即興音楽だけではなく、作編曲も学ぶようになってから、

Duke Ellington の偉大さがひしひしと感じられるようになりました。Take The A Train、In

A Sentimental Mood 等は皆さんもよくご存じですよ？素晴らしい曲を沢山作っています。今回の Satin Doll の日本語訳は、十数年前 Broad Way からやって来たタップダンスミュージカル "Sophisticated Ladies" のビデオから、書きとめたものである。

Sophisticated Ladies もとても豪華なキャストでしたね？Vocal の Dee Dee Bridgwater も圧巻でしたし、タップダンサー達も超一流揃いでしたが、やはりデューク・エリントンの音楽が素晴らしかった。70年以上前に作曲されたものがちっとも古さを感じさせない、そういうものを古典（Classic）と呼ぶのです。なぜ日本の音楽の教科書にユーミンが載って、ビートルズや武光は載って、デューク・エリントンが載らないのか不思議です（デューク・エリントンも立派な古典なのに）。ドイツの学校でも私は時々教えていますが、教室に Miles

Davis や、Charlie Panker の写真が飾ってあり、音楽の教科書にはボブ・マリーら、レゲエ、ロック、Jazz のアーティストが取り上げられています。

まあ、文化の違いと言えばその通りですが・・・。